

# 看護師職能委員会Ⅱ（介護・福祉関係施設・在宅等領域）活動報告

I 構成：委員長 山西育子 副委員長 河田詩子  
委員 8名

II 職能委員会開催状況 11回

III 検討事項並びに活動状況：

1. 令和元年度職能合同交流集会

日時：6月16日（日）15：00～16：30

テーマ：保健師・助産師・看護師Ⅰ・看護師Ⅱ職能委員会活動の報告及び全体討議

参加者：481名

2. 職能委員会の役割の確認

3. 職能委員会活動目標と活動状況

1) 活動目標

(1) 高齢者介護施設で働く看護職員の看取りケアの質向上をはかる

(2) 高齢者介護施設管理者に高齢者施設におけるクリニカルラダーを浸透させ、職場の活性化に向けた人材育成につなげる

日時	クリニカルラダー検討会	看取りケア普及検討会
6月22日	合同委員会、役員を選定、検討会の設置 各検討会の目標、活動内容、今後のスケジュールについて協議	
7月20日	年間計画 クリニカルラダーレベルⅠ修正	年間計画 看取り研修講師・テーマ検討、プログラム作成
8月17日	クリニカルラダーレベルⅠ試行に向けて の検討	看取り研修案内文・講師依頼分・起案書作成 看取り研修パワーポイントの、見直し
9月21日	高齢者ケア施設看護管理者交流会計画 講師依頼、プログラム作成	看取り研修講師養成のためのパワーポイント 資料作成役割分担、内容の検討
10月19日	高齢者ケア施設看護管理者交流会構成 講師依頼、プログラム修正	看取りガイドラインに沿った看取り研修講師 養成研修資料の作成
11月16日	高齢者ケア施設看護管理者交流会アンケ ート内容の修正	看取り研修講師養成のための研修資料作成
12月21日	高齢者施設看護管理者研修の役割り分担 交流会の事前資料送付・案内状作成	看取り研修の役割り分担、アンケート内容修正 研修ガイドブック作成
令和2年 1月17日	高齢者ケア施設看護管理者交流会 研修の反省、看取りケア研修打合せ	高齢者ケア施設看護管理者交流会 研修の反省、看取りケア研修打合せ
2月8日	介護施設等における看取り研修交流会 合同職能集会の役割り分担	
3月21日	研修会交流会のアンケート結果の確認 合同職能集会の資料作成	

4. 検討会設置（○印はリーダー）

1) 看取りケア普及検討会

委員：4名 ○井上栄子 谷脇直美 山西真弓 大坪美香

開催状況：10回

目 的：介護・福祉関係施設等で働く職員の、看取りケアの質向上を図る  
看取りガイドラインの普及  
地域包括ケアの推進

内 容：(1) 介護施設等における看取り研修会（1日研修）を開催し、研修参加者へのアンケート調査による「介護施設における看取りガイドライン」の普及状況を評価する。  
(2) 従来の看取り出前講座に代わる事業として、高齢者介護施設における看取り研修が自施設で開催できるよう、看取りガイドラインに沿ったガイドブックを作成して各施設での看取り研修講師の養成を図る。

2) 高齢者施設クリニカルラダー検討会（○印はリーダー）

委 員：4名 ○河田詩子 大西仁美 中田里美 佐藤智子

開催状況：10回

目 的：高齢者施設等の看護管理者の人材育成を図る  
高齢者介護施設におけるクリニカルラダーの作成・普及

内 容：前年度に作成した高齢者介護施設におけるクリニカルラダー（レベルⅠ）を作成し活用に向けて、高齢者介護施設等における看護管理者交流会を開催し、説明・意見を集約する。

## 5. 活動報告

1) 高齢者介護施設等の看護管理者研修

日 時：令和2年1月17日（金）9：30～12：00

場 所：香川県看護協会 看護研修センター

目 的：職場の活性化に向けた人材育成と看護管理者のネットワークづくり

テ ー マ：高齢者介護施設における人材育成のための看護師クリニカルラダーの活用にむけて

対 象 者：高齢者ケア施設で働く看護管理者

参 加 者：19名

2) 介護施設等における看取り研修会・交流会

日 時：令和2年2月8日（土）10：00～16：00

場 所：香川県看護協会 看護研修センター

目 的：本人・家族の意思決定支援および安らかな最期を迎えるための支援方法を学び、終末期や看取りケアの質の向上を図る

テ ー マ：家族支援・介護施設等における看取り研修講師の養成

参 加 者：49名

## 6. 出席会議

1) 令和元年度 第1回 全国看護師職能委員長会Ⅱ

日 時：8月21日（水）10：00～16：00

場 所：東京都千代田区 アルカディア市ヶ谷 私学会館

出席者：山西育子

内 容：

(1) 全体会 10：00～12：00 報告事項・質疑応答

各常任理事より重点事業の担当部分について報告

①日本看護協会役員を紹介

②令和元年度の重点政策・重点事業計画について

③Nursing now について

④都道府県看護協会支部役員等研修について

⑤看護チームにおける看護師・准看護師及び看護補助者の業務のあり方に関するガイドライン及び活用ガイドについて

⑥診療報酬改定に関する進捗状況について

(2) 全国看護師職能委員長会Ⅱ 13：00～16：00

以下の点について各都道府県からの報告とグループ討議

①報 告：令和元年度 重点政策・重点事業について

令和元年度看護師職能委員会Ⅱ 介護・福祉関係施設・在宅等領域の活動方針  
報告者：日本看護協会看護師職能Ⅱ(介護)・福祉関係施設・在宅等領域委員長  
岡島さおり

②情報提供：

- ・老人健康保険事業推進事業等報告

平成30年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金

—地域における看護師による相談・支援事業の検討および提案—

報告者：日本看護協会医療政策部 在宅看護課

「医療ニーズを有する利用者に対する介護支援専門員への看護に関連する療養上の相談支援の在り方に関する試行的調査研究事業」

「訪問看護サービス等における専門性の高い看護師によるサービス提供のあり方に関する試行的調査研究事業」

③情報提供：

「相互接続防止のための経腸栄養分野の小口径コネクタ製品の切り替えについて」

報告者：日本看護協会 看護開発部 看護業務・医療安全課

④講演：「事例から見る看護・在宅領域におけるリスク管理」

—利用者側からのハラスメント対策—

講師：介護福祉系法律事務所おかげさま事務所 代表弁護士 外岡潤

⑤地区別グループ討議(情報交換)

テーマ「看護管理者が考えるべきリスク管理、危機管理の具体的な内容、実践している対策について—利用者との関係に焦点を当てて—」

2) 令和元年度 地区別看護師職能委員長会Ⅱ—介護・福祉関係施設・在宅等領域—中国・四国地区

日 時：10月15日(火) 9:00~13:00

場 所：愛媛県松山市 ANA クラウンホテル松山

出席者：山西育子

内 容：

- (1) 看護師職能委員会Ⅱ活動報告(4~8月の活動報告)

- (2) グループ討議

テーマ①「組織力強化・看護管理者の連携推進」

訪問看護、介護施設、診療所で働く看護職の連携に向けた、各都道府県の取り組み内容や状況を踏まえた効果的な連携方法について

テーマ②「看護管理者が考えるべき労働者および療養者のリスク管理」

看護管理者が考えるべきリスク管理、危機管理において講じる対策のレベル(個人、組織、地域)に応じた具体的な内容・実践している対策について

3) 令和元年度 都道府県看護協会支部役員等研修会—中国・四国地区—

日 時：10月15日(火) 13:00~16:00

場 所：愛媛県松山市 ANA クラウンプラザホテル松山

出席者：山西育子

内 容：講演・グループ討議

- (1) 講演：「地域包括ケア推進における看護職間連携の取り組み」

講師：岡山市医療政策推進課 地域ケア総合推進センター所長 高木由里

- (2) 講演：「地域包括ケアの実現を支える看護職機能連携システムの構築について」

講師：日本看護協会常任理事 鎌田久美子

- (3) グループ討議

テーマ：「看護職連携モデルを用いた地域課題の解決」

7. まとめ・課題

1) 看取りケア普及検討会

- (1) まとめ

看護師職能委員会Ⅱでは、平成28年度に看取りガイドラインを改定し、平成29年度は普及促進の

ために看取りガイドラインの活用方法や実践例について意見集約を図るとともに、看取りガイドラインの内容に沿った看取り出前講座を行った。看取り出前講座は好評で施設からの依頼も多かったが、出向する委員の負担を考慮して、平成30年度は、自施設で看取り研修が実施できるよう看取り研修の講師の養成を目標に活動した。

前年度の高齢者施設等における看取り研修交流会のアンケート結果を踏まえて、研修会では「家族支援」をテーマに講演や実践報告を行ない、施設の看取りの現状や、医師や多職種との連携についての学びを得た。また、自施設における看取り研修の講師を養成するために、高齢者施設等における看取りガイドラインに沿った看取り研修ガイドブックを作成し、研修資料として提供した。交流会では、看取りガイドラインの活用状況の把握、看取り研修を自施設で行うために講師養成ができるかどうか等について意見交換を行った。看取りガイドラインの活用状況は30%であった。高齢者介護施設では、介護職との連携が不可欠であり、看取り経験の少ない若いスタッフに対して研修を行うことの必要性を感じつつも、看護師の人数が少なく講師を養成していくことの困難さがあるとの意見がきかれた。

## (2) 今後の課題

- ①看取りガイドライン普及のため、アピールを継続する
- ②高齢者介護施設では、看護師がリーダーの役割を持つが、数が少なく業務が優先されるという現状を踏まえて研修を計画する
- ③ガイドラインを活用した事例検討を通して、より具体的な活用方法の紹介等を行っていく

## 2) 高齢者施設クリニカルラダー検討会

### (1) まとめ

日本の高齢化率が27.3%と過去最高となり、病院中心の「治す医療」から、地域全体で「治し支える医療」へと移行行く中で、市町村において地域包括ケアシステムの構築が推進され、介護・福祉関係施設・在宅等領域で働く看護師の力が一層重要視されている。日々の実践や評価の可視化が看護職の地域における就労の機運を高めるとされ、クリニカルラダーも看護職の質の維持、標準化を推進する方法の一つとして、全国レベル、全領域での推進が求められている。

看護師職能委員会Ⅱでは、平成29年度に作成した高齢者介護施設におけるクリニカルラダー（レベルⅠ）の活用に向けて、高齢者介護施設等における看護管理者交流会を開催し、説明・意見の集約を行った。

交流会では、新人看護師や看護の質の維持のため活用したいという前向きな意見もあったが、一般病院においても十分に普及していないクリニカルラダーを、施設内で少数派である看護師が、自施設に取り入れていくことの困難さが主要な意見として示される結果となった。各施設の性格によっても内容が異なるという意見もあり、今後は高齢者介護施設におけるクリニカルラダーの活用の普及を図るとともに、各施設の特徴にあった内容に改訂を求めていく必要があることを確認した。

### (2) 今後の課題

- ①高齢者介護施設におけるクリニカルラダーの内容を活用しやすいよう修正を検討する
- ②研修会・交流会で意見集約を図るとともに、さらにクリニカルラダーを浸透させる
- ③研修会・交流会を継続し、介護・福祉関係施設・在宅等領域で働く看護師の看護の質向上を支援する